

## 4. 男性の家事・育児等の参加について

問8 「男性が女性とともに家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加する必要がある」という考え方について、どう思いますか。(1つだけ)

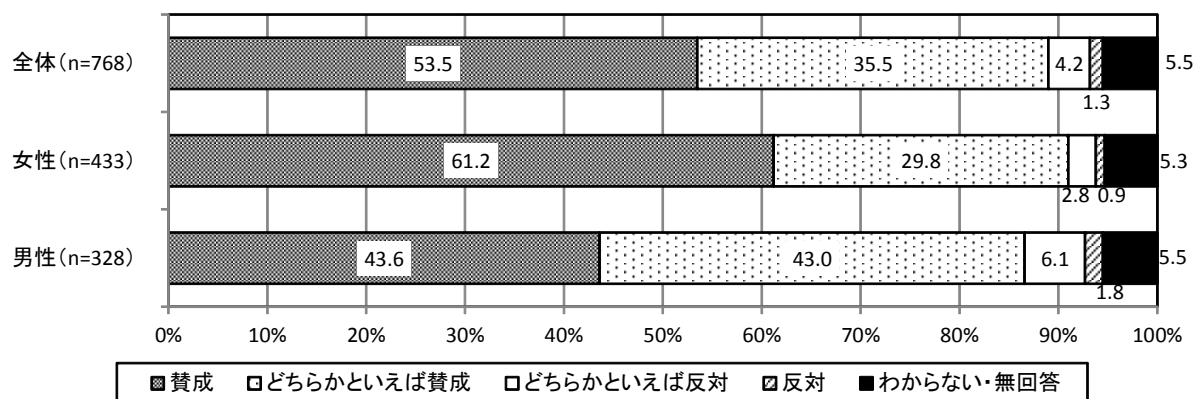
○ 男性の家事・育児等への参加については、全体で約9割の人が「賛成」または「どちらかといえば賛成」と回答している。

全体では「賛成」が53.5%と最も多く、次いで「どちらかといえば賛成」が35.5%となっている。

女性は「賛成」61.2%、「どちらかといえば賛成」29.8%と、「賛成」が「どちらかといえば賛成」を大きく上回っているが、男性では「賛成」43.6%、「どちらかといえば賛成」43.0%と拮抗している。

「賛成」と回答した割合をみると、女性が男性を17.6ポイント上回っており、男性の参加を強く望んでいることがうかがえる。

■ 図20 男性の家事・育児等参加について

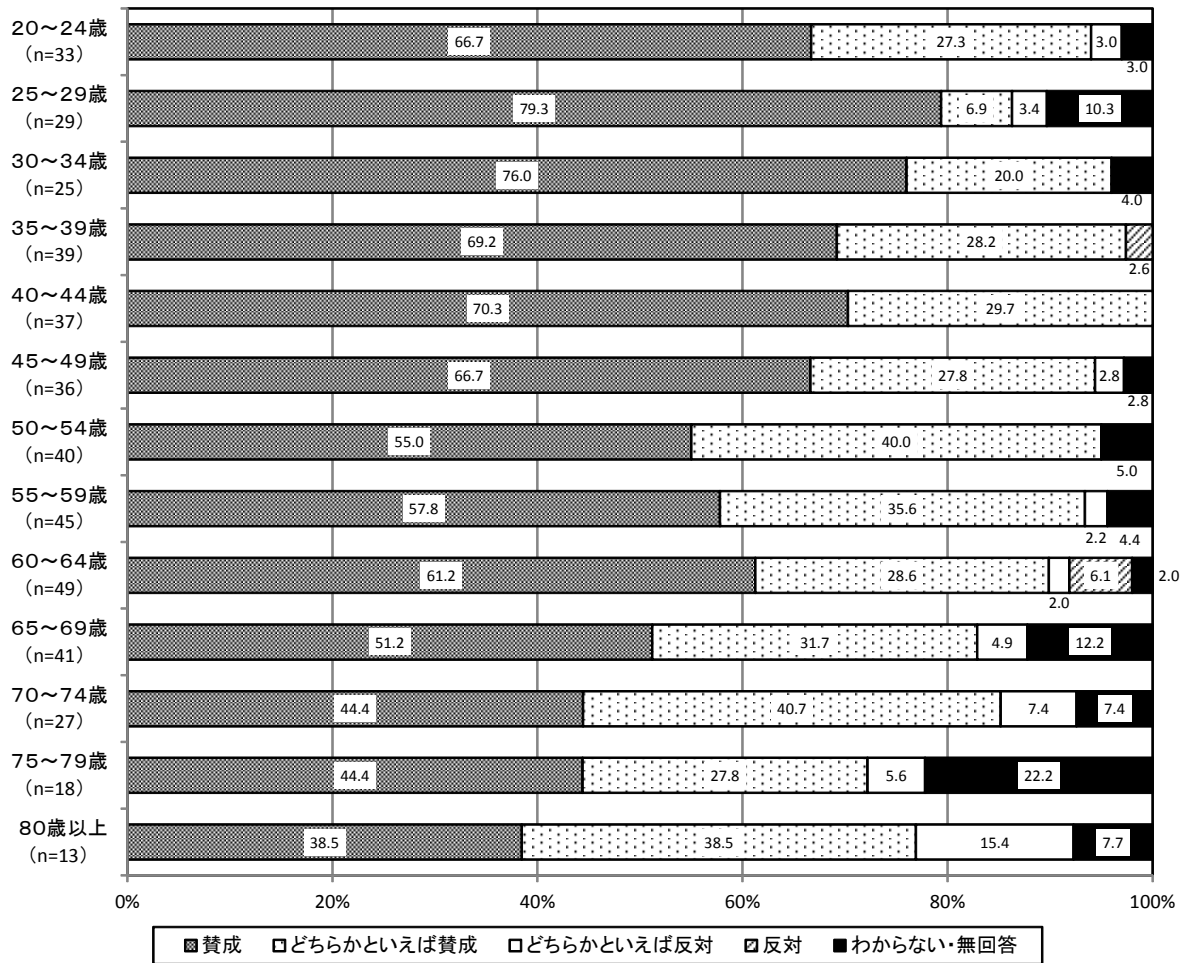


女性を年代別で見ると、20歳から69歳までで「賛成」と答える人の割合が過半数となっており、特に20歳から49歳までの子育て世代を含む比較的若い年代では65%を超える高い割合を示した。

20歳から74歳までで「賛成」または「どちらかといえば賛成」を合わせた賛成意見が8割以上を占めていることから、多くの女性が男性の家事・育児等への参加を望んでいることがわかる。

60歳以上の高齢層における「反対」または「どちらかといえば反対」を合わせた反対意見は男性における反対意見の割合を下回っており、男性と比べ高齢層の抵抗感が少ないことがうかがえる。

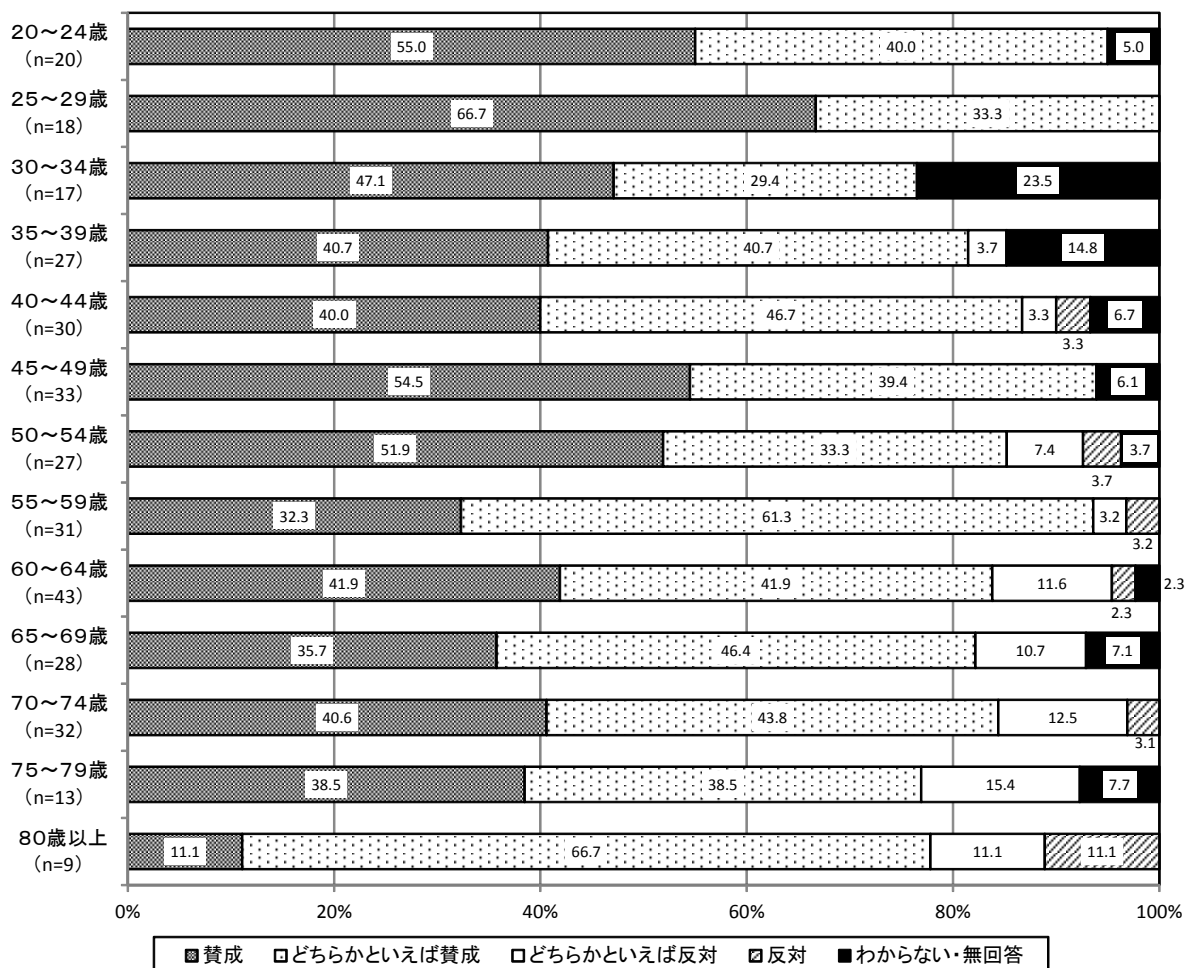
■ 図21-1 男性の家事・育児等参加について（女性年代別）



男性を年代別で見ると、20歳代と45～49歳、55～59歳で9割以上が「賛成」または「どちらかといえば賛成」と考える賛成意見であるほか、その他の年代でも7割～8割が賛成意見となっており、多くの男性が家事・育児等に参加することに対し肯定的であることがわかる。

50～54歳、60歳以上では1割から2割程度が「反対」または「どちらかといえば反対」とする反対意見となっており、中年層から高齢層では若年層に比べて抵抗感の強い人が多い結果となっている。

■ 図21-2 男性の家事・育児等参加について（男性年代別）



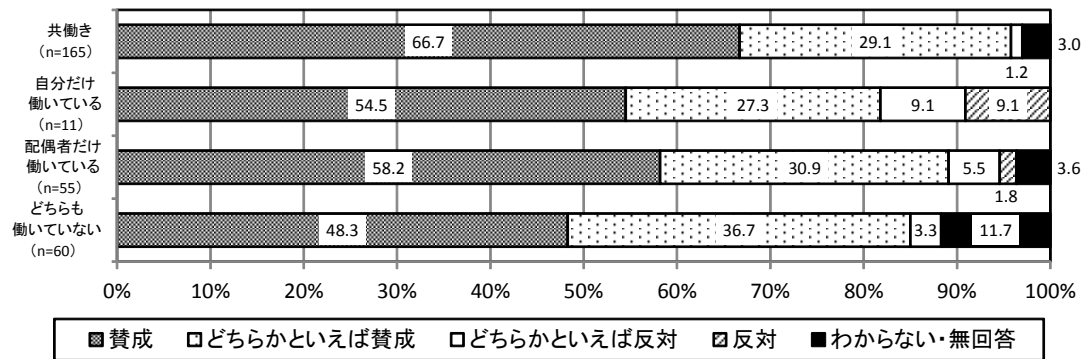
参考 男性の家事・育児等参加について（既婚者の状況）

女性は自分または配偶者の就労の有無に関わらず「賛成」が最も多く、どちらも働いていない場合を除き過半数を占めている。

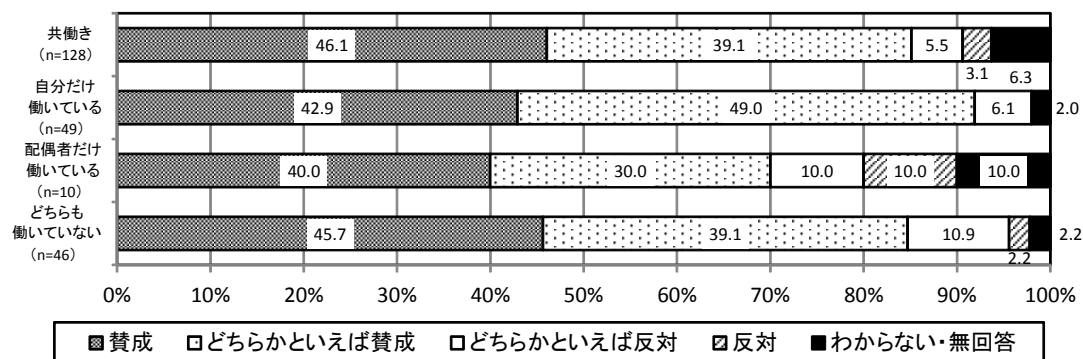
男性は、自分だけ働いている場合以外で「賛成」が最も多くなっており、家事・育児等への参加意欲が高いことがうかがえる。

既婚の男女ともに、男性の家事・育児等への参加を肯定的にとらえていることがうかがえる。

《女性》



《男性》



注：性別無回答n=1を除く

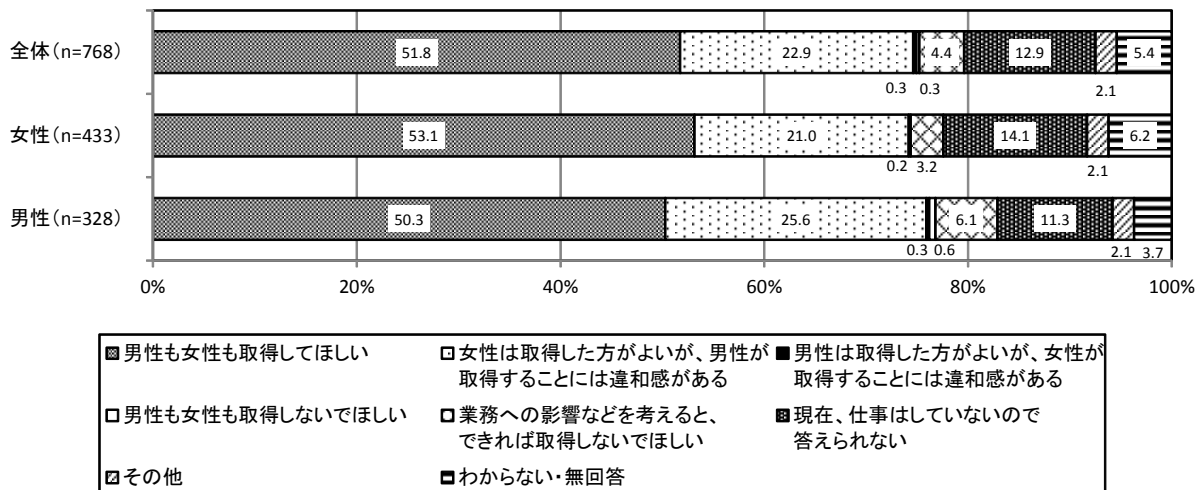
**問9** 職場の男性または女性が育児休業を取得するとしたら、どう思いますか。(1つだけ)

- 過半数の人が「男性も女性も取得してほしい」と考えている。
- 「女性は取得した方がよいが、男性が取得することには違和感がある」と感じる人も多く、2割程度を占めている。

全体で見ると、「男性も女性も取得してほしい」と考える人が51.8%と最も多く、次いで「女性は取得した方がよいが、男性が取得することには違和感がある」22.9%となっている。

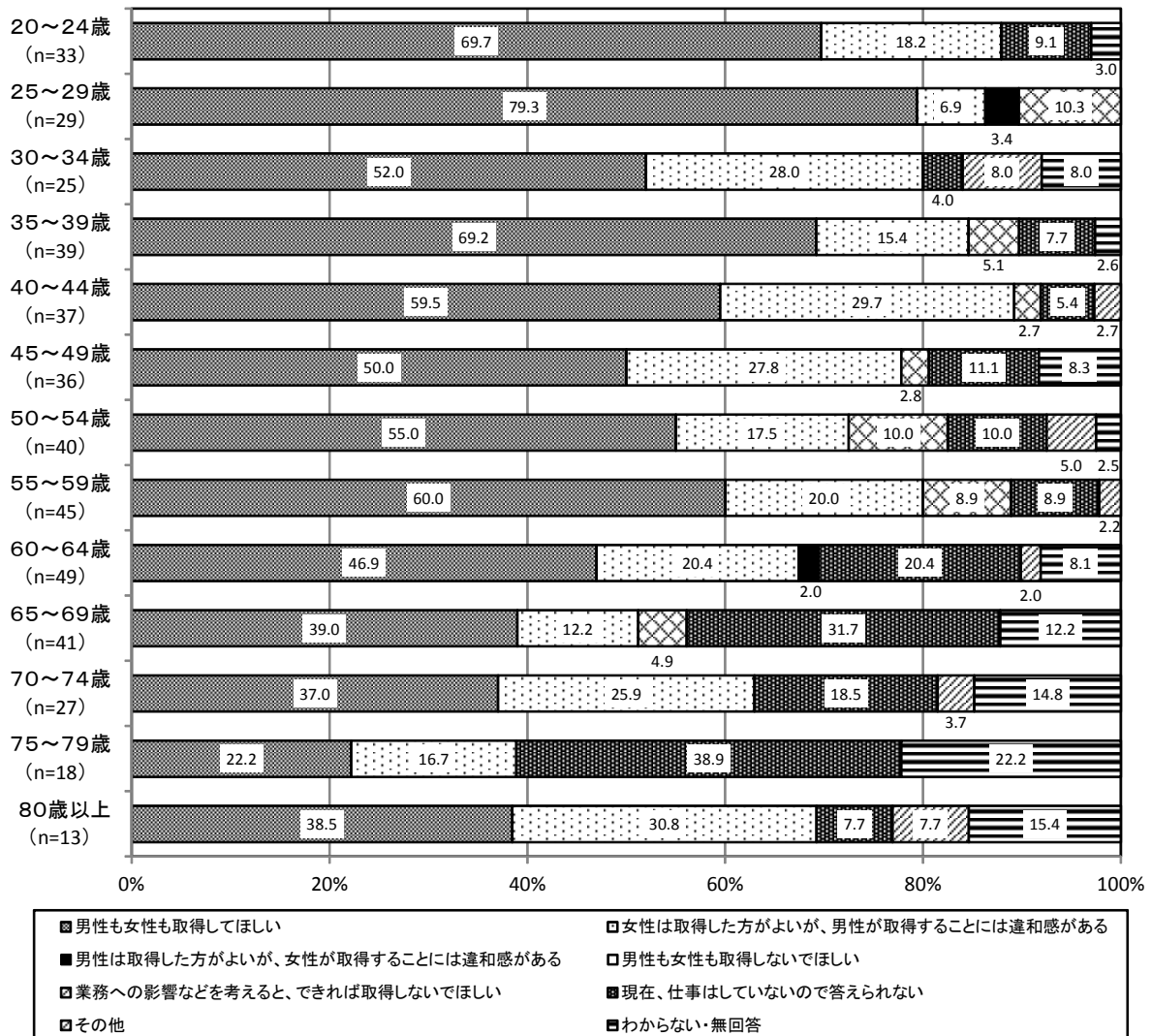
男女別にみると、「男性も女性も取得してほしい」女性53.1%、男性50.3%で男女ともに過半数が性別に関わりなく育児休業を取得してほしいと考えている。また男性の方が女性に比べ「女性は取得した方がよいが、男性が取得することには違和感がある」、「業務への影響などを考えると、できれば取得しないでほしい」と考える人の割合が高く、育児休業の取得に対し男性の方が消極的な傾向にある。

■ 図22 育児休業の取得について



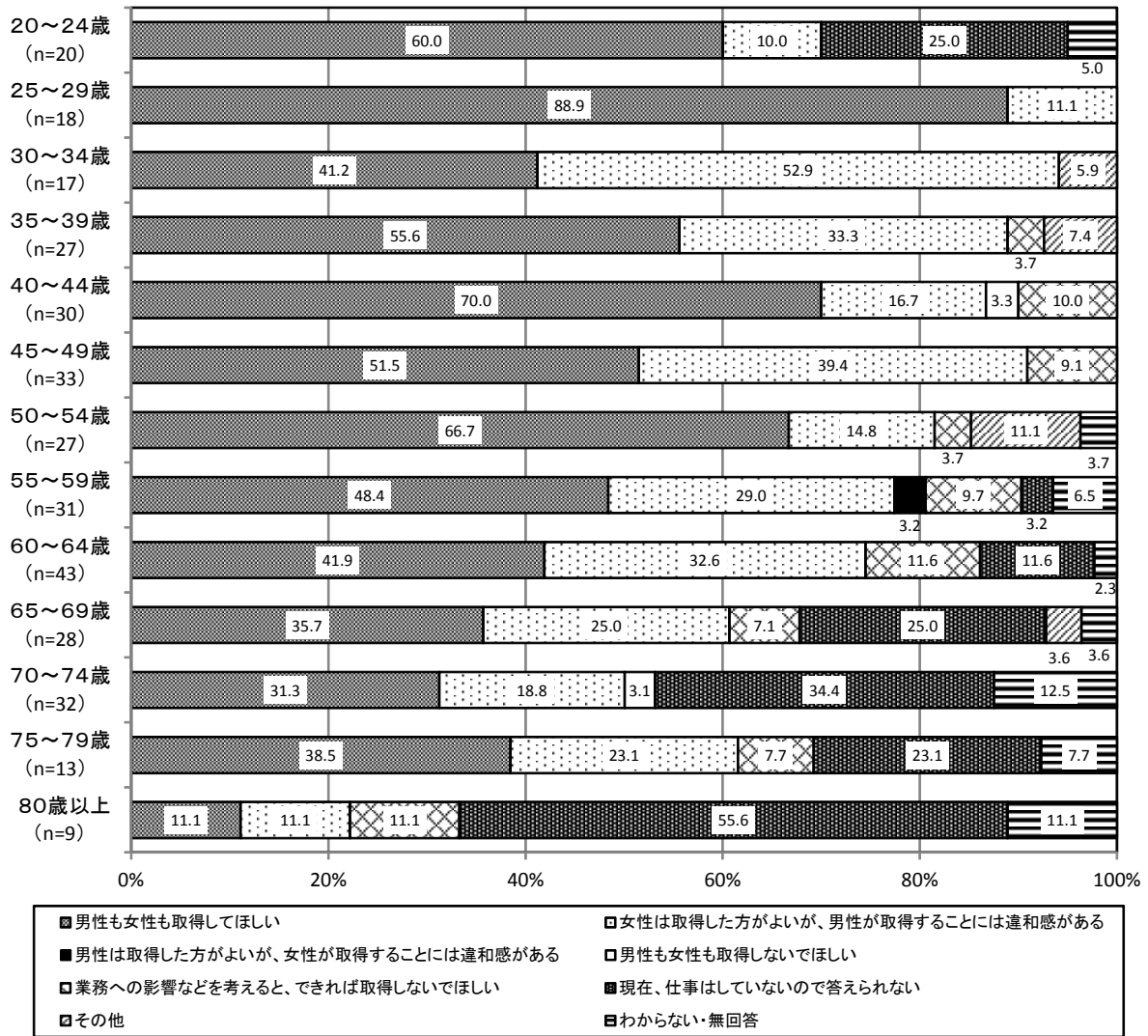
女性を年代別にみると、全ての年代で「男性も女性も取得してほしい」と考える人の割合が最も多くなっている。また「女性は取得した方がよいが、男性が取得することには違和感がある」と考える人の割合は30歳代前半と40歳代で他の年代より比較的高くなっており、男性同様に子育て世代で、男性の育休取得に対し消極的な傾向がうかがえる。

■ 図23-1 育児休業の取得について（女性年代別）



男性を年代別にみると、30歳から34歳、70歳から74歳、80歳以上を除く全ての年代で「男性も女性も取得してほしい」と考える人の割合が最も多い一方で、子育て世代と推定される30歳代で「女性は取得した方がよいが、男性が取得することには違和感がある」と考える人の割合も高くなっており、子育て世代の男性自身が男性の育休取得に消極的であることがうかがえる。

■ 図23-2 育児休業の取得について（男性年代別）

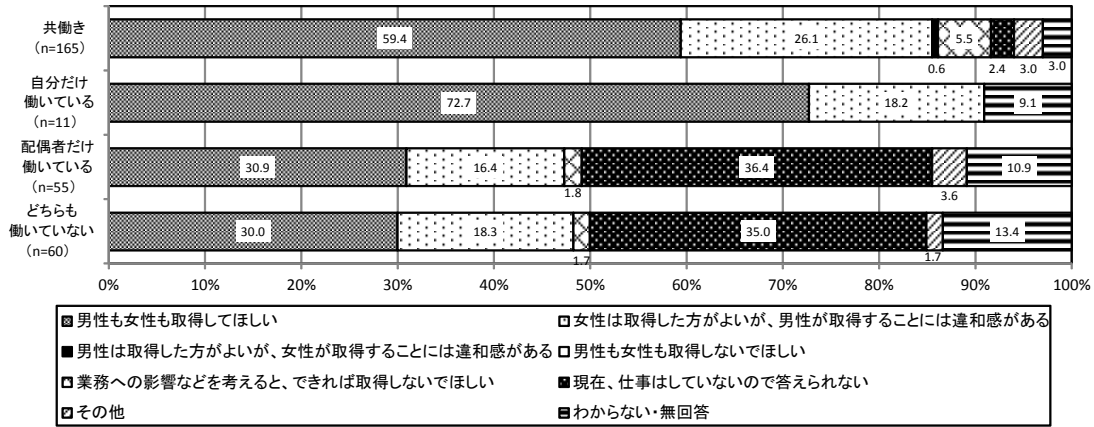


参考 育児休業の取得について（既婚者の状況）

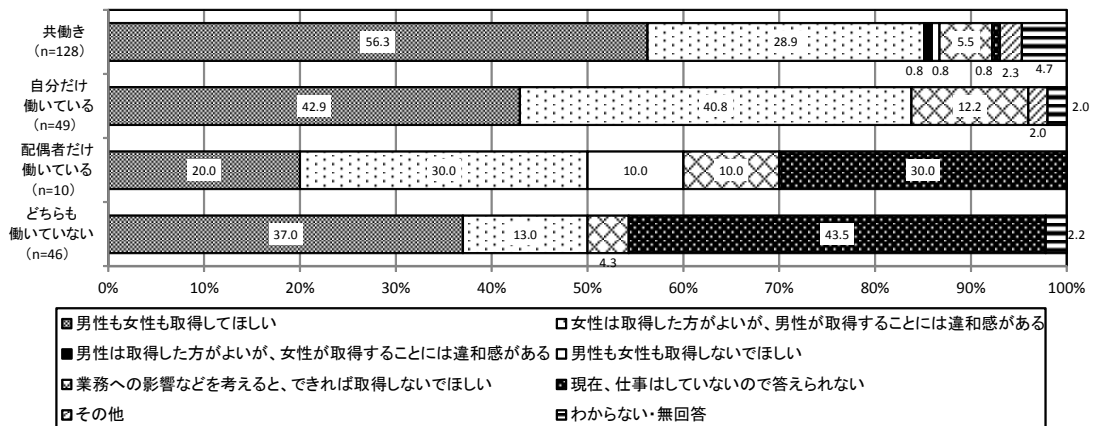
女性は、自身が働いている場合には過半数が男女ともに取得してほしいと考えているが、働いていない場合には男女ともに取得してほしいと考える人の割合が3割程度にまで落ち込むという結果となった。

男性は、共働きの場合過半数が男女ともに取得してほしいと考えているが、自分だけ働いている場合には「男性も女性も取得してほしい」と「女性は取得した方がよいが、男性が取得することには違和感がある」が拮抗する。

《女性》



《男性》



注：性別無回答n=1を除く



**問10** 今後、男性の家事・育児・介護への参加を進めていくためには、どのようなことが必要だと思いますか。(いくつでも)

- 約6割の人が「夫婦や家族間でのコミュニケーション」が必要であると考えており、次いで「男性自身の抵抗感をなくすこと」や「社会の中で男性による家事等についての評価を高めること」といった意識改革や「労働時間短縮や休暇制度の普及により仕事以外の時間を持てるようにすること」が多くなっている。
- 男女間では、「男性自身の抵抗感をなくすこと」、「夫婦や家族間でのコミュニケーション」、「年配者や周りの人が当事者の考え方を尊重すること」、「社会の中で評価を高めること」において、意識の差がみられた。

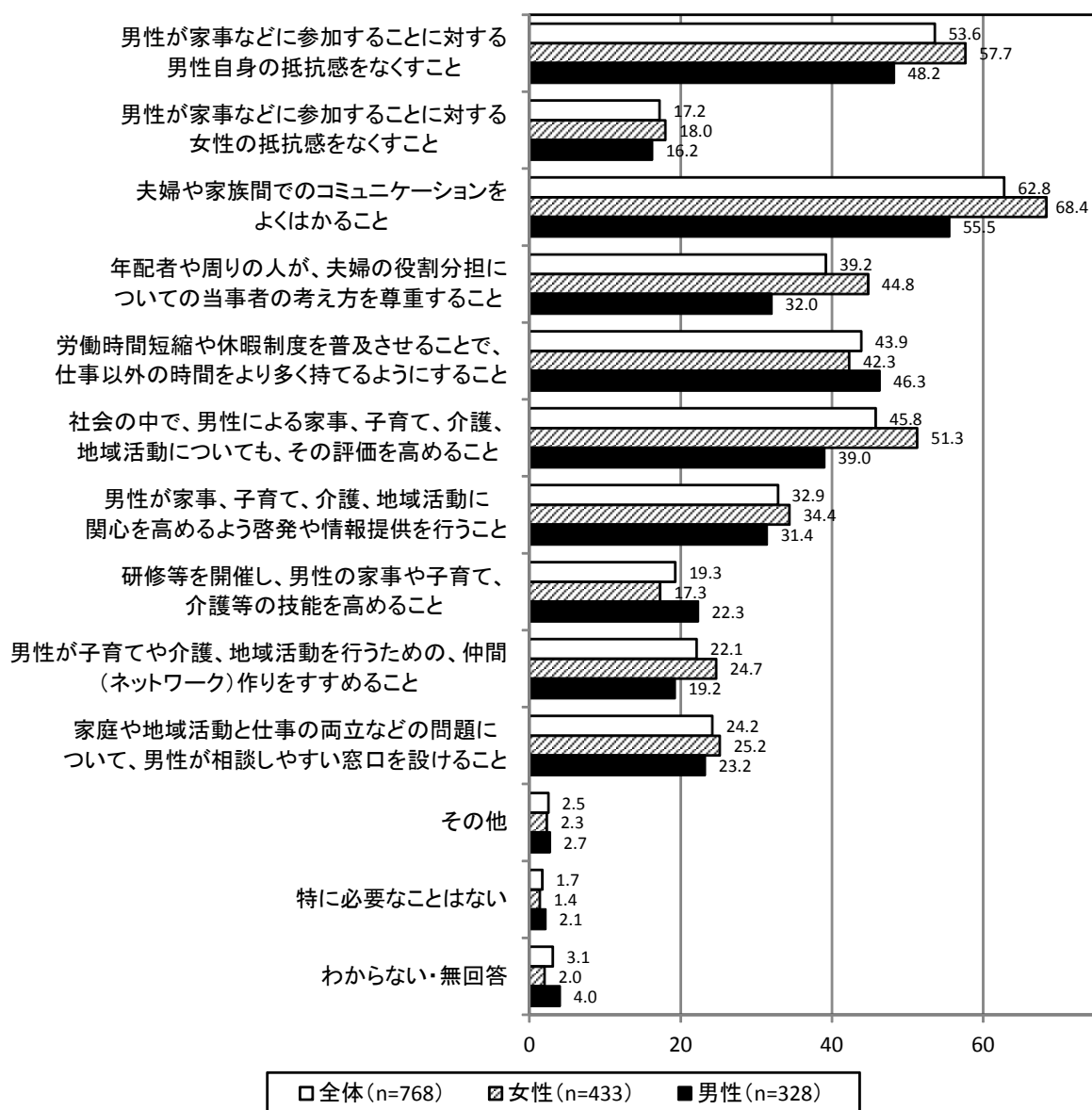
男性の家事等への参加を進めていくために必要だと考えられることについては、「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」が男女いずれも多く、全体62.8%、女性68.4%、男性55.5%となっている。

次いで多かった回答は、男女ともに「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」であり、全体53.6%、女性57.7%、男性48.2%となっている。

男女の意識の差をみると、「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」が女性68.4%、男性55.5%、その差12.9ポイントと最も大きくなっており、次いで「年配者や周りの人が、夫婦の役割分担についての当事者の考え方を尊重すること」が女性44.8%、男性32.0%でその差12.8ポイント、「社会の中で、男性による家事、子育て、介護、地域活動についても、その評価を高めること」が女性51.3%、男性39.0%でその差12.3ポイントとなっている。いずれも女性の方が必要と考えている割合が高い。

男性が女性よりも必要と考えている割合が高い項目は、「労働時間短縮や休暇制度を普及させることで、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること」と「研修等を開催し、男性の家事や子育て、介護等の技能を高めること」であり、その差はそれぞれ4.0ポイント、5.0ポイントとなっている。

■ 図 2 4 男性の家事等への参加に必要なこと



単位：(%)

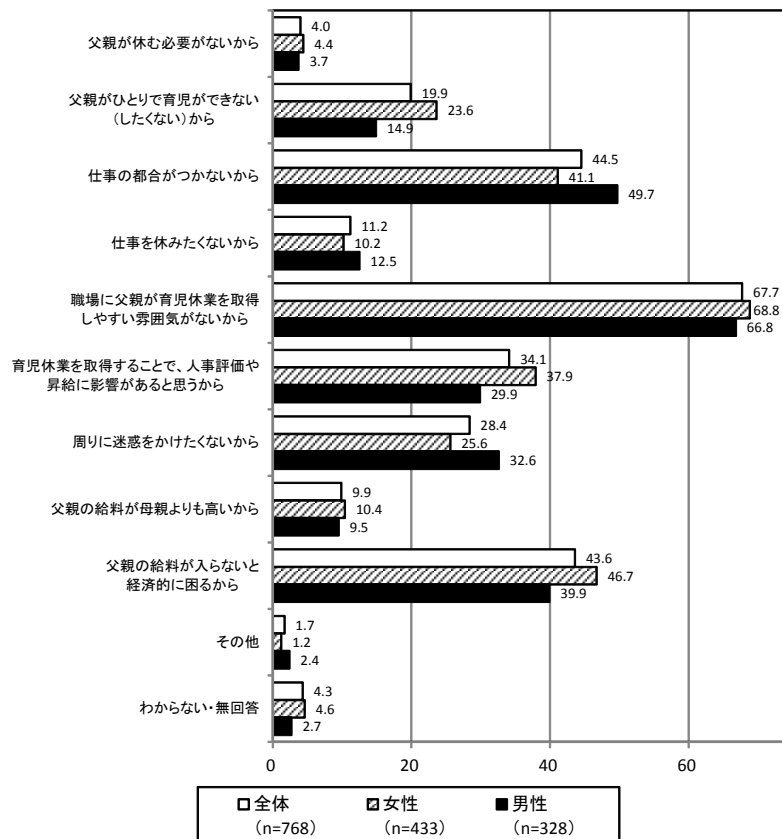
**問11** 男性（父親）の育児休業取得が進まない現状にあります。それはどのような理由からだと思えますか。（3つまで）

- 「職場に父親が育児休業を取得しやすい雰囲気がないから」と答える人の割合が過半数を占めて最も多く、次いで「仕事の都合がつかないから」、「父親の給料が入らないと経済的に困るから」となっている。
- 男女で意識に差がみられたのは、「父親がひとりで育児ができない（したくない）から」、「仕事の都合がつかないから」、「育児休業を取得することで、人事評価や昇給に影響があると思うから」、「周りに迷惑をかけたくないから」、「父親の給料が入らないと経済的に困るから」であった。

「職場に父親が育児休業を取得しやすい雰囲気がないから」が全体67.7%、女性68.8%、男性66.8%と男女とも過半数を占め最も多く、次いで「仕事の都合がつかないから」全体44.5%、女性41.1%、男性49.7%、「父親の給料が入らないと経済的に困るから」全体43.6%、女性46.7%、男性39.9%となっている。

男女別でみると、女性の方が理由として挙げた割合が高かったものは「父親がひとりで育児ができない（したくない）から」、「育児休業を取得することで、人事評価や昇給に影響があると思うから」、「父親の給料が入らないと経済的に困るから」であるのに対し、男性の方が理由として挙げた割合が高かったものは「仕事の都合がつかないから」、「周りに迷惑をかけたくないから」となっている。父親が育児休業を取得することがためられる理由について、男性は仕事や周囲の人への影響を考える傾向があるのに対し、女性は父親がひとりで育児をすることへの不安、職場における評価、経済的不安を考える傾向にある。

■ 図25 男性の育児休業取得が進まない理由



単位：(%)

## 5. 男女共同参画の推進に関する施策について

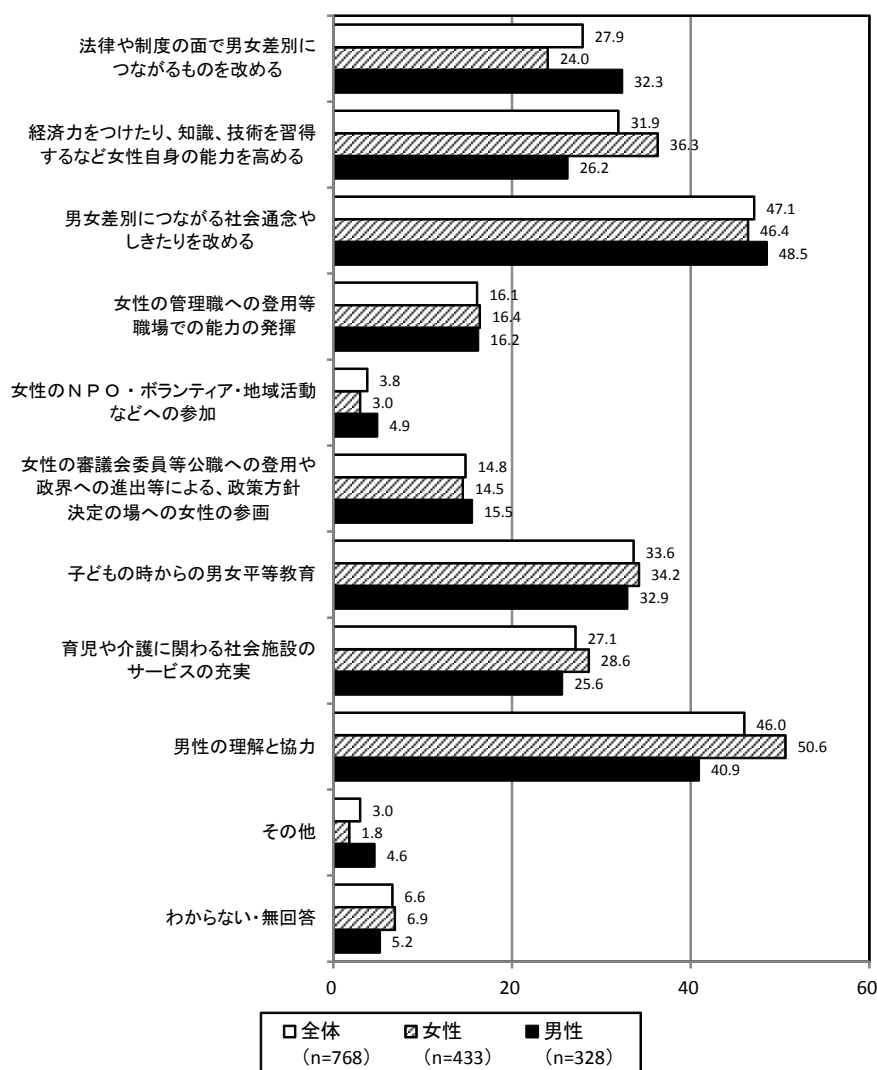
問12 今後さらに男女平等になるために重要と思われるものは何ですか。(3つまで)

- 全体では「男女差別につながる社会通念やしきたりを改める」が最も多く、次いで「男性の理解と協力」、「子どもの時からの男女平等教育」となっている。
- 「法律や制度の面で男女差別につながるものを改める」、「女性自身の能力を高める」、「男性の理解と協力」において男女の意識に差がみられる。

全体では「男女差別につながる社会通念やしきたりを改める」が47.1%、男性でも48.5%と最も多いが、女性では「男性の理解と協力」が50.6%で最も多い項目となっている。

「法律や制度の面で男女差別につながるものを改める」では女性24.0%、男性32.3%で男性が8.3ポイント上回っているが、「経済力をつけたり、知識、技術を習得するなど女性自身の能力を高める」は女性36.3%、男性26.2%で女性が10.1ポイント上回り、「男性の理解と協力」では女性50.6%、男性40.9%で女性が9.7ポイント上回る結果となっており、男女の意識に差がみられる。

■ 図26 男女平等になるために重要なこと



単位：(%)

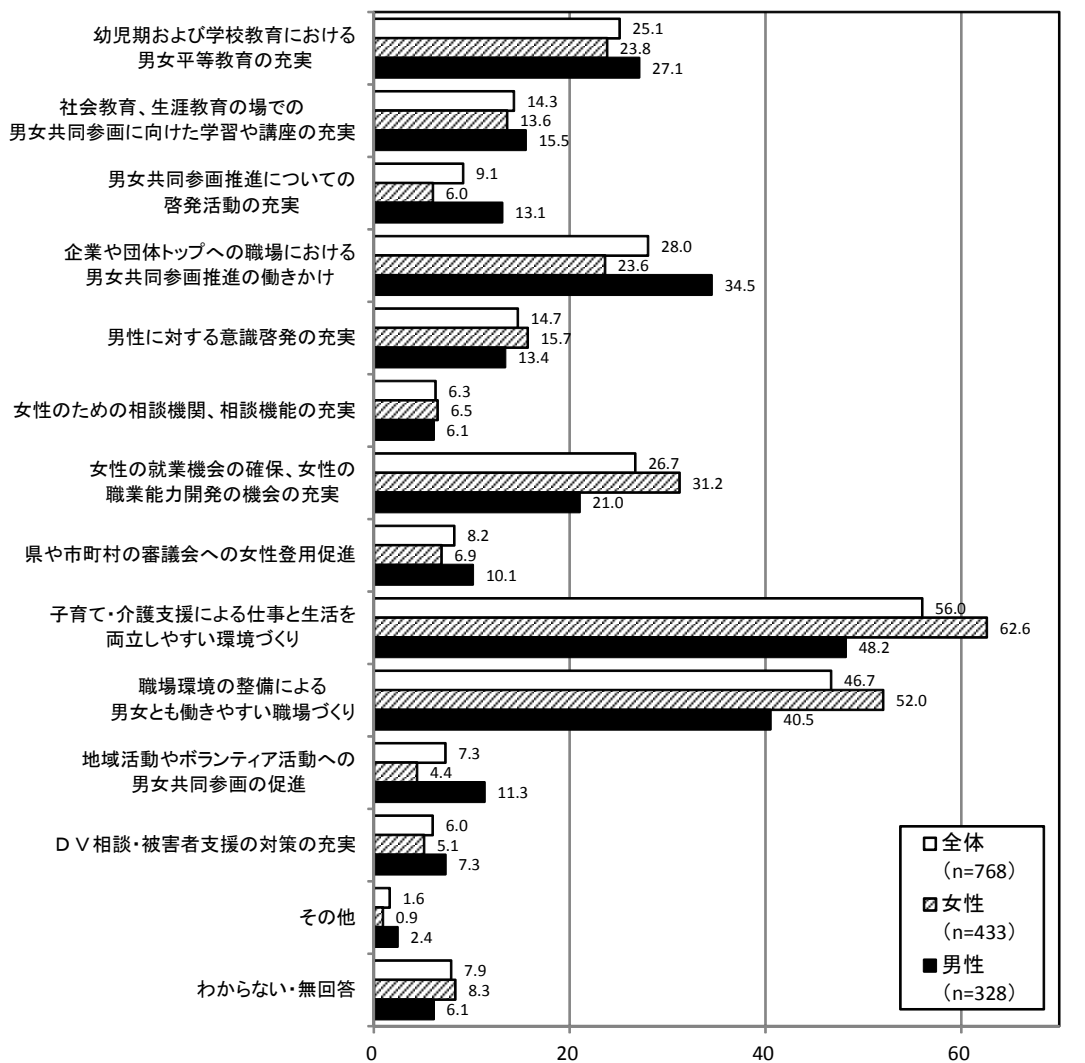
**問13** 県では、男女共同参画社会の実現を目指して様々な施策を実施していますが、  
 今後はどのようなことに力を入れたらよいと思いますか。（3つまで）

- 全体では、「仕事と生活を両立しやすい環境づくり」を望む人が最も多い。
- 男女とも2番目に多かったのは「男女とも働きやすい職場づくり」であったが、3番目は女性が「女性の職業能力開発の機会の充実」、男性が「企業や団体トップへの働きかけ」となっている。

男女共同参画社会の実現を目指して、今後「子育て・介護支援による仕事と生活を両立しやすい環境づくり」に力を入れるべきだと考える人が、全体56.0%、女性62.6%、男性48.2%と最も多くなっている。

次いで「職場環境の整備による男女とも働きやすい職場づくり」が全体46.7%、女性52.0%、男性40.5%となっているが、3番目に多い項目は女性では「女性の就業機会の確保、女性の職業能力開発の機会の充実」、男性では「企業や団体トップへの職場における男女共同参画推進の働きかけ」となっている。なお、「子育て・介護支援による仕事と生活を両立しやすい環境づくり」、「職場環境の整備による働きやすい職場づくり」は、女性の過半数が力を入れるべきだと回答する一方、男性の割合は過半数には達せず、男女間の差が大きい。

■ 図27 今後力を入れたらよいと思われる施策



単位：(%)

## 6. しつけと教育について

問14 男女平等教育をすすめるために、学校にどのようなことを期待しますか。(3つまで)

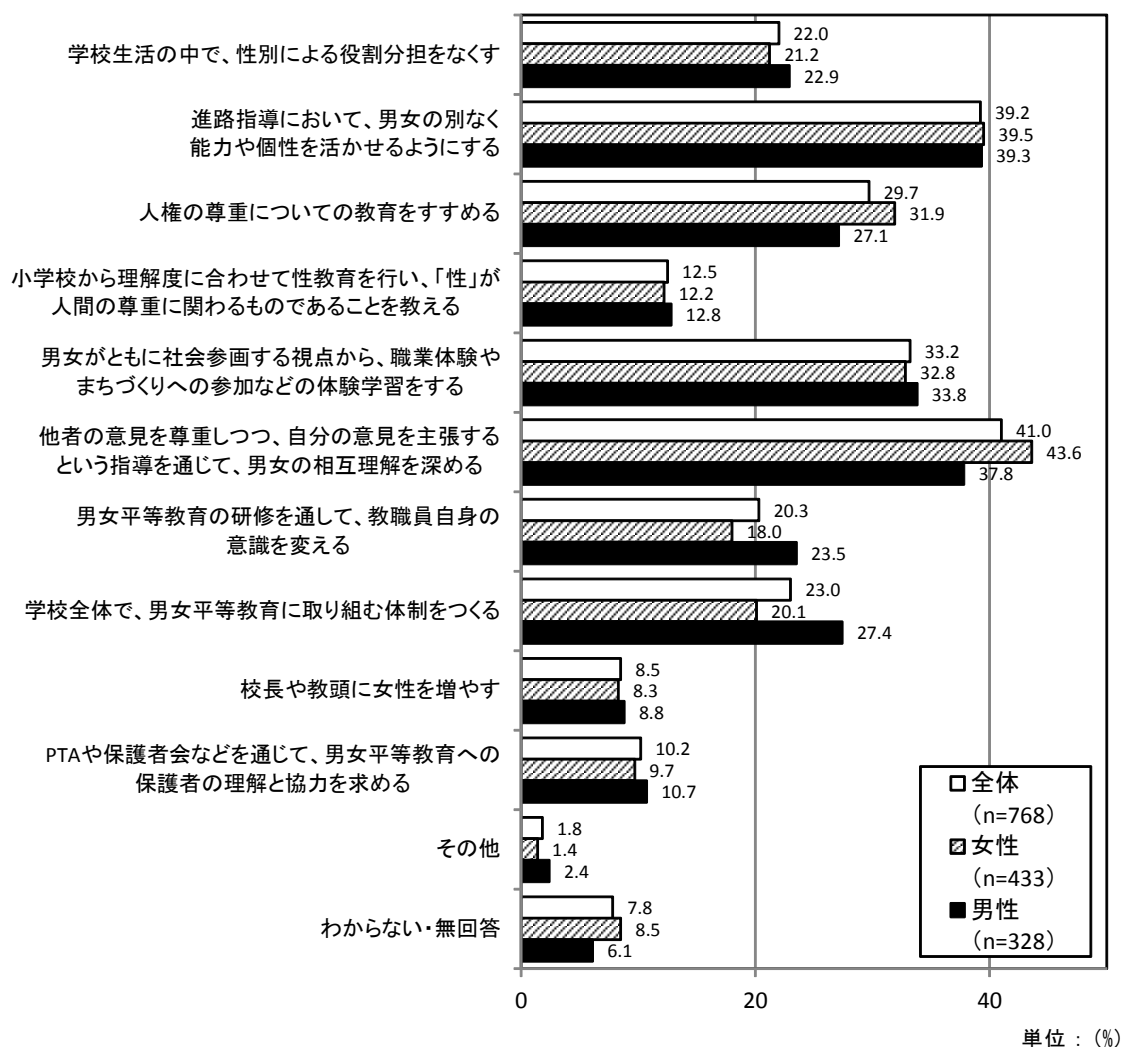
○ 全体で、約4割の人が「他者の意見を尊重しつつ、自分の意見を主張するという指導を通じて、男女の相互理解を深める」こと及び「進路指導において、男女の別なく能力や個性を活かせるようにする」ことを期待している。

女性では「他者の意見を尊重しつつ、自分の意見を主張するという指導を通じて、男女の相互理解を深める」が43.6%で最多となり、次いで「進路指導において、男女の別なく能力や個性を活かせるようにする」39.5%、「男女がともに社会参画する視点から、職業体験やまちづくりへの参加などの体験学習をする」33.8%となっている。

男性では「進路指導において、男女の別なく能力や個性を活かせるようにする」が39.3%で最も多く、次いで「他者の意見を尊重しつつ、自分の意見を主張するという指導を通じて、男女の相互理解を深める」37.8%、「男女がともに社会参画する視点から、職業体験やまちづくりへの参加などの体験学習をする」33.8%という順になった。

男女で最も差がみられたのは「学校全体で、男女平等教育に取り組む体制をつくる」であり、女性20.1%、男性27.4%でその差は7.3ポイントとなっている。

■ 図28 男女平等教育をすすめるために、学校に期待すること



**問15** 「男の子は男の子らしく」、「女の子は女の子らしく」という性別によるしつけ方について、どう思いますか。(1つだけ)

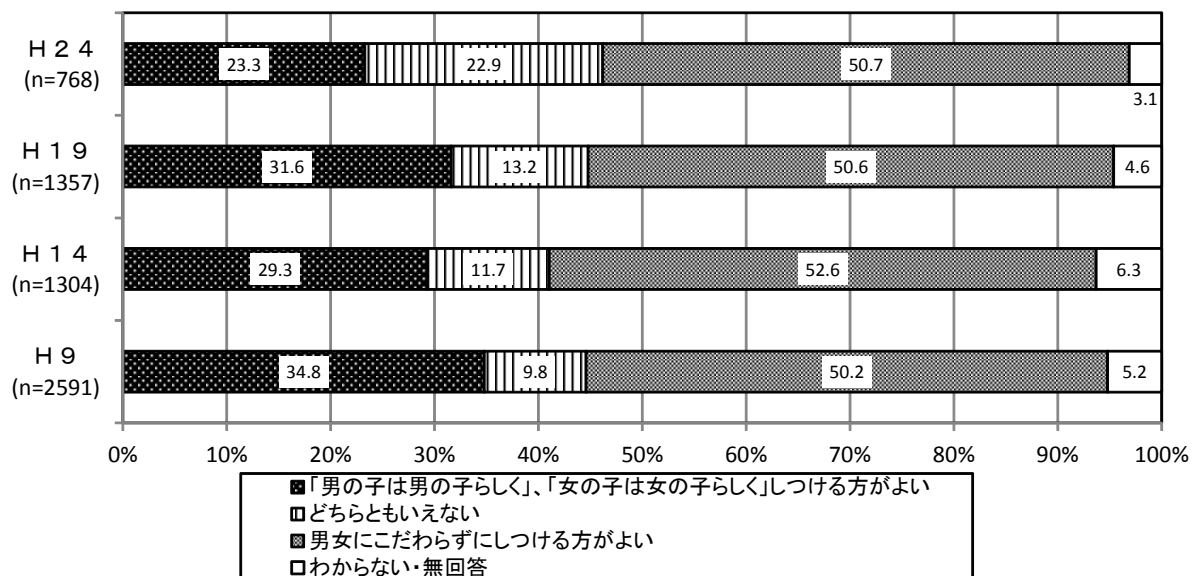
- 過半数の人が「男女にこだわらずにしつける方がよい」と考えている。
- 前回調査と比較すると、男性で「男の子は男の子らしく」、「女の子は女の子らしく」しつける方がよい」と考える人の割合が大きく減少している。

しつけ方については、「男女にこだわらずにしつける方がよい」が全体50.7%、女性52.2%、男性48.8%と最も多くなっている。

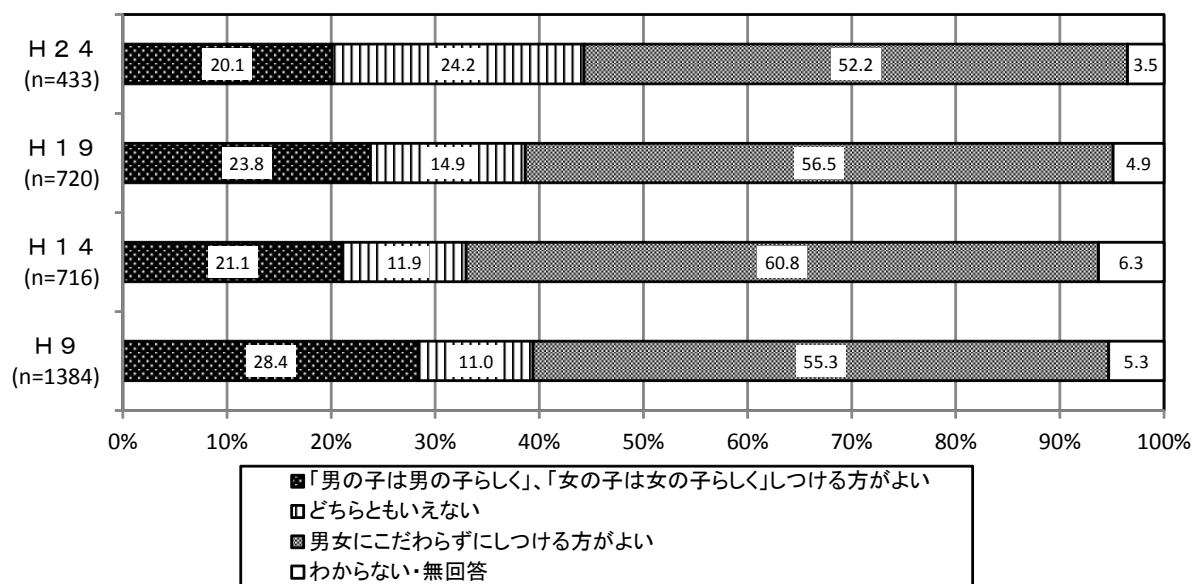
過去3回（H9、H14、H19）と比較すると、「男女にこだわらずにしつける方がよい」についてはあまり変化がないものの、「男の子は男の子らしく」、「女の子は女の子らしく」しつける方がよい」と答える人の割合が8.3ポイントと大きく減少している。

男女ともに今回の調査では、前回の調査と比べ、「どちらともいえない」と回答する人の割合が女性で9.3ポイント、男性で10.1ポイントと大幅に増加している。

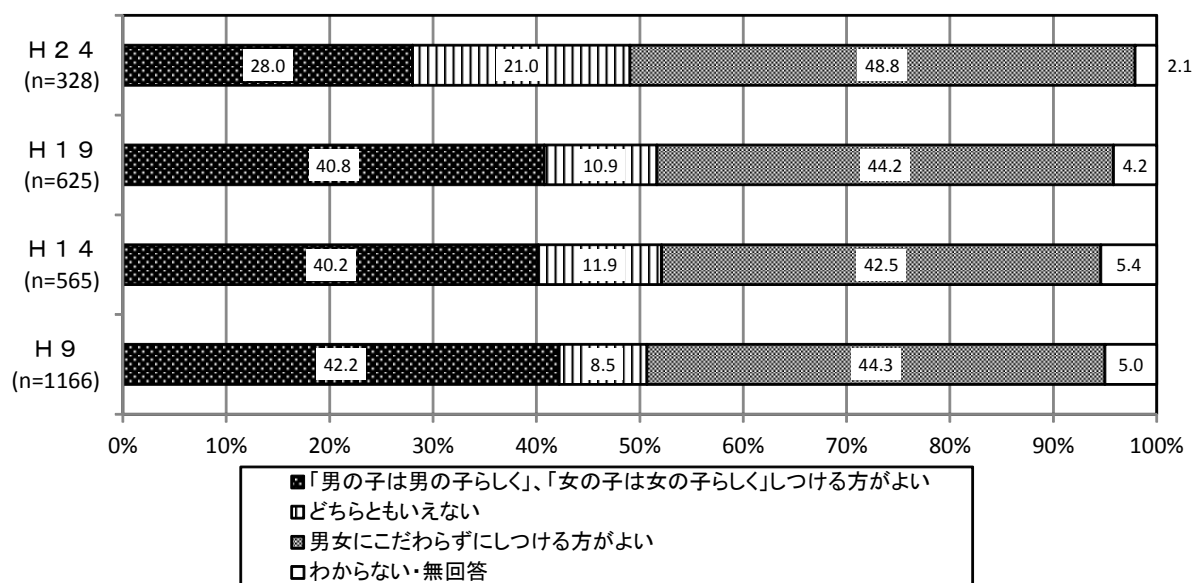
■ 図29-1 性別によるしつけ方について（全体）



■ 図 2 9 - 2 性別によるしつけ方について（女性）



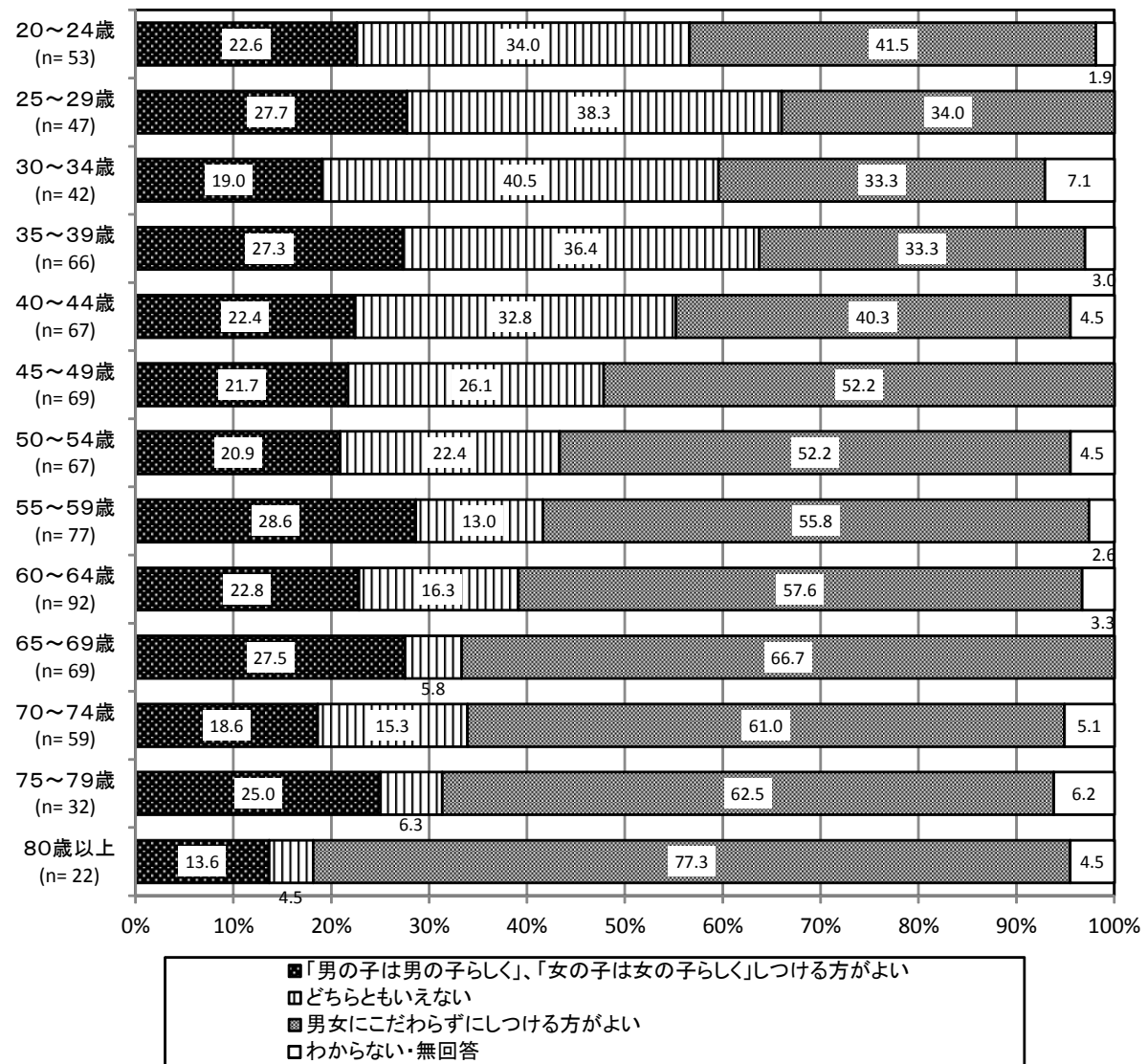
■ 図 2 9 - 3 性別によるしつけ方について（男性）





年代別にみると、「男女にこだわらずにしつける方がよい」と回答した人の割合は、40歳代後半以降のすべての年代で過半数を占めている一方で、40歳代前半以前ではすべての年代で半数に達していない。また「どちらともいえない」と回答した人の割合は、20歳代から40歳代前半において、他の年代に比べてその割合が高くなっている。

■ 図29-4 性別によるしつけ方について（年代別）



注：年代無回答n=6を除く

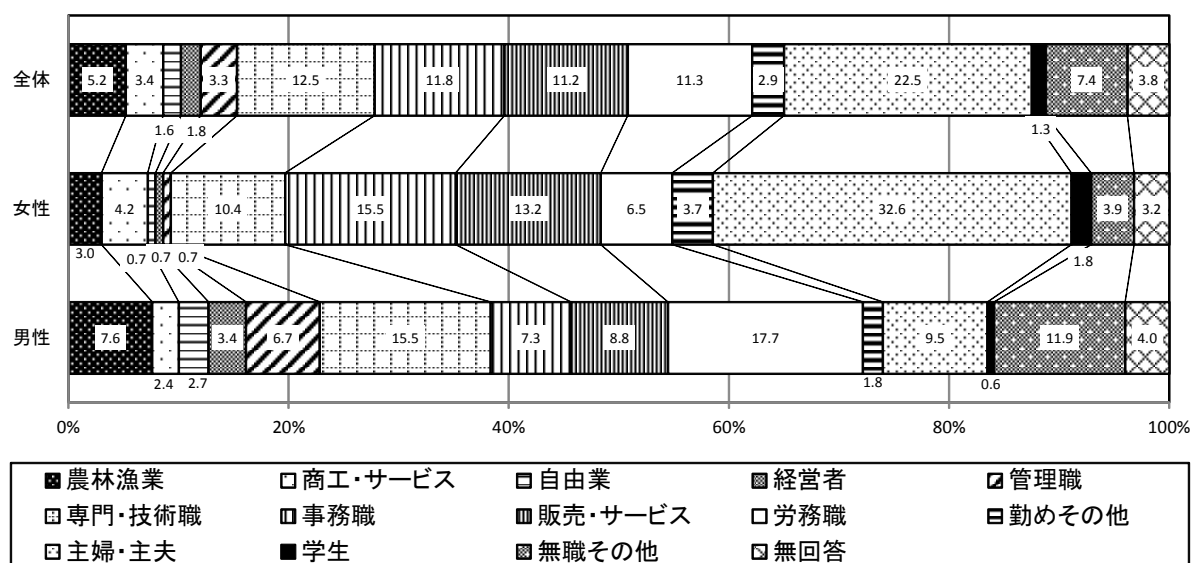
## 7. 職業について

問16 現在のあなたの職業を教えてください。(1つだけ)

女性では「主婦」が32.6%と最も多く、次いで「事務職」15.5%、「販売・サービス」13.2%の順となっている。また、男性では「労務職」17.7%が最も多く、次いで「専門・技術職」15.5%、「無職その他」11.9%の順になっている。

全体では、「農林漁業」、「商工・サービス」、「自由業」を合わせた「自営 家族従業」が10.2%、「会社の経営者」が1.8%、「管理職」、「専門・技術職」、「事務職」、「販売・サービス」、「労務職」、「勤めその他」を合わせた「勤めている人（役員を含む）」が53.0%、「主婦・主夫」、「学生」、「無職その他」を合わせた「無職」が31.3%となっている。

■ 図30 現在の職業について

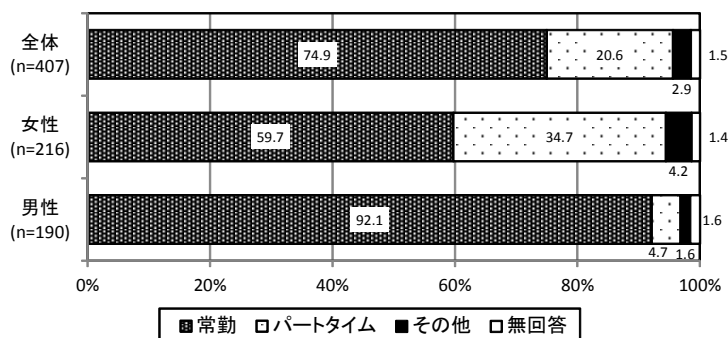


問17 お仕事は常勤（フルタイム）ですか、パートタイムですか。(問16で「勤めている人（管理職、専門・技術職、事務職、販売・サービス、労務職、その他）」と答えた人のみ、1つだけ)

男女とも「常勤」が過半数であるが、女性は59.7%であるのに対し、男性は92.1%と男女間で32.4ポイントもの隔りがある。

また「パートタイム」については、女性34.7%、男性4.7%と女性が男性を30ポイント上回り、大きな差がある。

■ 図31 勤務形態について



注：全体のうち、「常勤」に性別無回答n=1を含む

**問18** あなたの職場では、性別によって処遇が異なると感じられるようなことがありますか。(問16で「経営者」、または「勤めている人」と答えた人のみ、いくつでも)

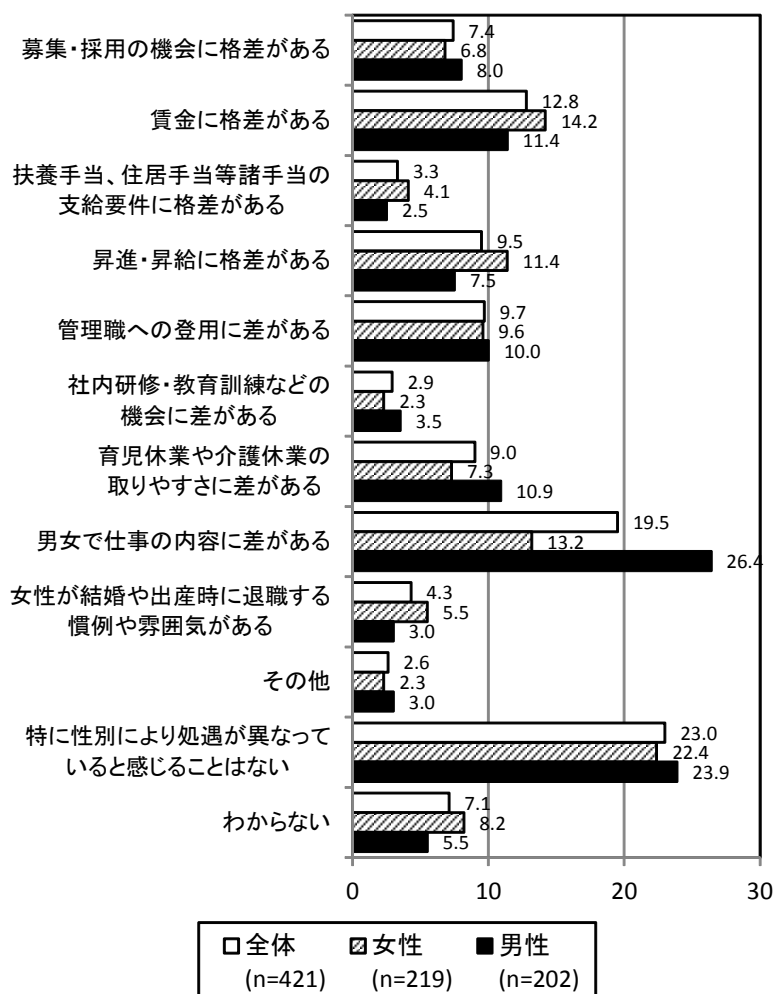
- 「特に性別により処遇が異なっていると感じることはない」が全体では最も多くなっている。
- 男女別にみると、女性では「特に性別により処遇が異なっていると感じることはない」が、男性では「男女で仕事の内容に差がある」がそれぞれ最も多くなっている。

女性では「特に性別により処遇が異なっていると感じることはない」が22.4%と最も多く、次いで「賃金に格差がある」13.7%、「男女で仕事の内容に差がある」13.2%となっている。

男性では「男女で仕事の内容に差がある」が26.4%と最も多く、次いで「特に性別により処遇が異なっていると感じることはない」23.9%、「賃金に格差がある」11.4%となっている。

「男女で仕事の内容に差がある」と答えた人の割合については男性が女性を13ポイント上回っており、大きく差がついた。

■ 図32 職場における性別による処遇の違いについて



単位：(%)

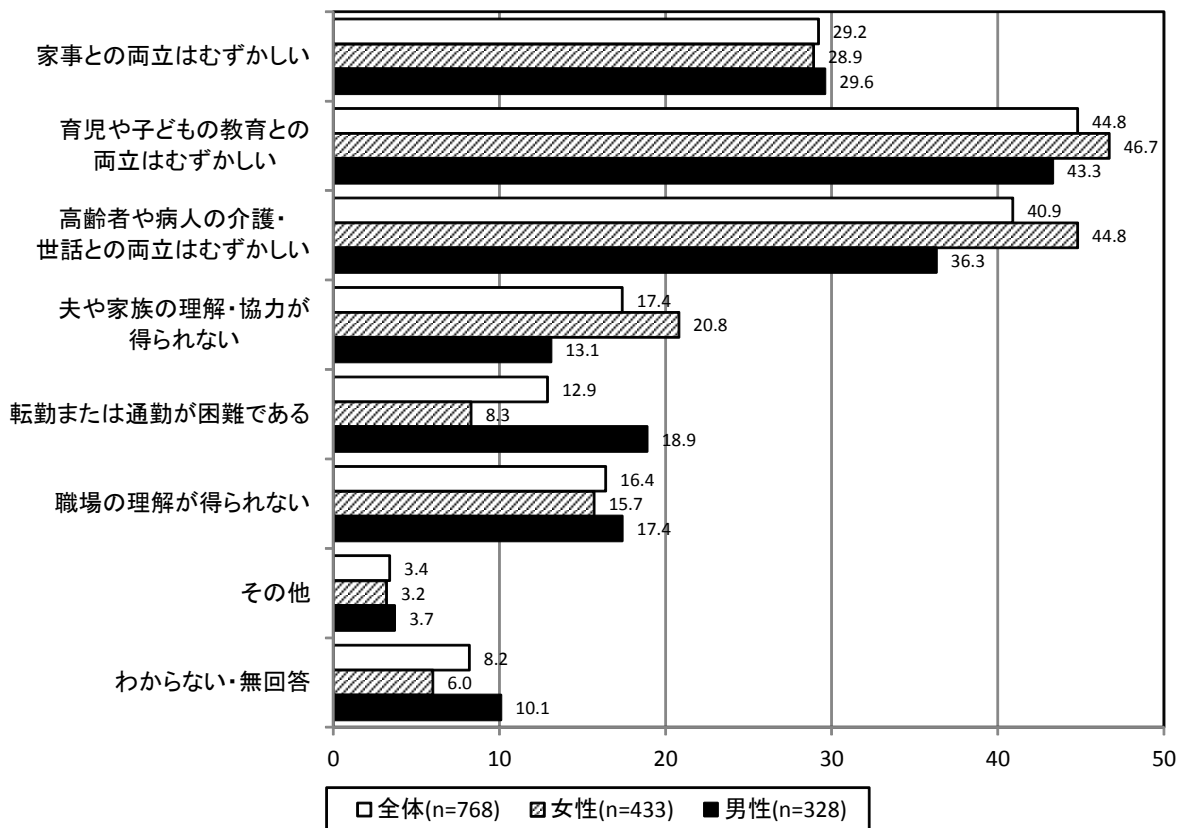
**問19** 女性が働き続けることを妨げている問題点は何だと思えますか。(2つまで)

- 「育児や子どもの教育との両立はむずかしい」が最も多く、次いで「高齢者や病人の介護・世話との両立はむずかしい」、「家事との両立はむずかしい」となっている。
- 「高齢者や病人の介護・世話との両立はむずかしい」、「夫や家族の理解・協力が得られない」、「転勤または通勤が困難である」では男女間で意識の差が大きい。

「育児や子どもの教育との両立はむずかしい」が全体44.8%、女性46.7%、男性43.3%と最も多く、次いで「高齢者や病人の介護・世話との両立はむずかしい」、「家事との両立はむずかしい」となっている。

男女別にみると、「高齢者や病人の介護・世話との両立はむずかしい」が女性44.8%、男性36.3%と8.5ポイント差、「夫や家族の理解・協力が得られない」が女性20.8%、男性13.1%と7.7ポイント差でそれぞれ女性が男性を上回っているが、「転勤や通勤が困難である」では女性8.3%、男性18.9%と男性が女性を10.6ポイント差で上回り、男女の意識に差がみられる。

■ 図33 女性が働き続けることを妨げている問題点



単位：(%)